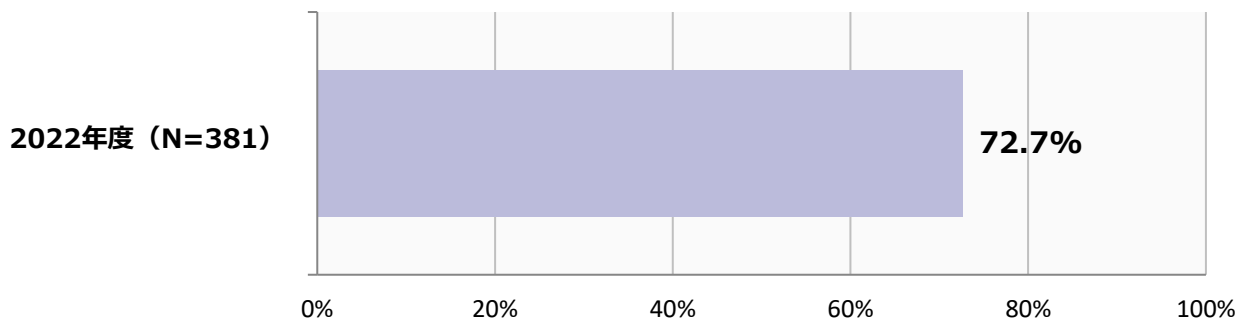


がん性疼痛緩和指導管理料・外来緩和ケア管理料算定による オピオイド適正使用を目指した取り組み

WHO方式がん疼痛治療法はオピオイドの定期投与とレスキュードーズによる突出痛への対応、十分な副作用対策を行うことで70-80%以上に鎮痛効果が得られていると述べています。医療用麻薬を適切に使用することで、がん患者の疼痛緩和ができ、更に医療者へ緩和医療の意識を高めオピオイドの適正使用につながり



当院値の定義・算出方法

分子： がん性疼痛緩和指導管理料+外来緩和ケア管理料算定者数
分母： オピオイド使用患者数

$$\frac{\text{分子}}{\text{分母}} \times 100 (\%)$$

※グラフ中のN数は分母の値を示している。

結果の考察と今後の取り組み

算定できていない患者は、チーム介入されていない患者が多かったです。退院後は看護外来で痛みの評価を継続していくことを説明し介入するようにしました。チーム未介入の患者へは、各科医師事務より算定依頼してもらうよう声掛けするようになっています。

CST (Cancer survivor Support Team)

委員長 西 大介